

千葉県佐原市は江戸時代、利根川水運の中継地として栄えた。その中心地に、コンクリート造りではあるが、蔵造りの商家を思わせる伊能忠敬記念館がある。隠居後の第二の人生を実測による日本地図の完成に尽くした忠敬の遺書や遺品二百十五種九百六十一点が保管展示されていて、いずれも歴史資料として国の重要文化財に指定されている。

私がこれらの資料と初めて出合ったのは、公立小学校を退職し、昭和六十二年四月、記念館に勤務するようになったからである。

特に感動したのは、忠敬が十七年間で三千七百五十三日の日数をかけ

お夫 達
ま 間
さ 久
佐

潮音 風声

て日本全国を測量した時、一日も欠かさずに記した「測量日記」二十八冊である。通過した街道、宿駅、寺社、古城、名所などが記されていて、当時の地方文化を知る上で貴重な資料だ。

町おこしや生涯学習の資料にと、よく内容の問い合わせがあった。そこで私は、日記の活字化を第二の人生のライフワークと決めた。

その日から、朝夕の数時間をタイプライターによる印字化にあてた。読めないものはノートにメモし、帰宅してから古文書辞典や市販の地図で調べた。三年後に完成した時は、B4判で千七百ページにもなった。私家

3753日の測量日記

本は国会図書館などに寄贈したほか、希望する大学や地方の図書館にも実費でわけた。

昨年五月、東京の学術図書出版社「大空社」から校訂版出版の話があり、本邦初の全巻公刊となった。昨年は忠敬没後百八十年にあたったので、各種の機関で伊能忠敬に関係した行事がもたれ「測量日記」が活用されている。



元伊能忠敬記念館
長 一九二八年千葉
県生まれ。「伊能忠
敬測量日記」(全6

巻)を校訂。